朝鮮社会科学者協会

通　報



1

2021

目　　次

人民とともに

人民とともに！

この言葉には、一生涯人民の中に入って彼らと喜びも悲しみも分かち合いながら生死、苦楽をともにした、人民の慈父であった金日成主席の偉人像が反映されている。

金日成主席は、15 歳の若年に革命の道を歩み始めてから長い期間、地下革命闘争と二度にわたる革命戦争と復興建設、二段階の社会革命と社会主義建設を輝かしい勝利に導いて不滅の業績を積み上げた。

主席がこのような業績を積み上げることができた根本的秘訣は、以民為天を座右の銘にして一生涯人民の中に入って苦楽をともにしながら、人民大衆の力を十分に引き出したところにある。

主席にとって人民大衆は天であり、師であり、この世で一番力強い全知全能な存在であった。人民を愛しておし立て人民に依拠すれば実現できないことがないというのが主席の信条であり、座右の銘であった。

金日成主席は、自分の一生を振り返る回顧録の第一ページに「革命家はつねに、人民を信頼し人民に依拠すれば百戦百勝するが、人民に見捨てられれば百戦百敗するという真理を生活と闘争の座右の銘とすべきである」と記した。

主席は、機会があるたびに、幹部に会うたびに、人民の中に入るようねんごろに教えた。

人民の中に入るのは強壮剤を服用するのと同じであり、入らないのは毒薬を飲むに等しいといいながら一生を「人民行き列車」に乗って人民を訪ねてたゆみのない現地指導の道を歩まれた方が主席であった。

それゆえ、主席は思想と路線を提示するにしても以民為天の思想で一貫したものを打ち出し、党と国家を建設するにしても、人民に奉仕する母なる党、人民の国家を建設したのである。

人民とともに！実にこの言葉には限りなく素朴で清廉潔白であり、厚い同志愛と人情をもって人民と生死苦楽をともにした主席の崇高な偉人像が含蓄されている。

主席は労働者階級を訪ねては汚れている彼らの手もはばかりなく取り合って暮らし向きもお聞きし、膝を交えて難局を乗り越える方途も討論した。農村に行けば地味な莫蓙の上にもこだわりなく座って農民の生活と営農について話し合いながら彼らを

穀物増産へと呼び起こした。

主席の「人民行き列車」の汽笛が鳴る中で朝鮮には人民が主人となった社会主義楽土が建ちあがり、人民のための記念碑的創造物が林立するようになった。

つねに人民とともにいながら彼らと渾然一体をなしたまさにここに、偉大な金日成主席があれほど大きな業績を積み上げ、人民から高い尊敬と称揚を受けた所以がある。

以民為天の崇高な志が反映された表現

偉大な金正日総書記の愛民献身の輝かしい歴史は、一生涯愛情を込めて使っていた人民に対する表現にも秘められている。

人民に対する愛情を天稟として身につけた金正日総書記は、革命を指導する初期から、私も勤労する人民の息子だと言いながら、朝鮮人民をもっとも崇高で親しい言葉で表現していた。

総書記は、不朽の古典的著作「チュチェ思想について」において、人民大衆を社会歴史の主体、革命と建設の主人であると明らかにし、その地位を最上の境地に引き上げた。これには人民大衆を世界でもっとも貴重で力強い存在、最も才能のある創造者としておし立て、人民の尊厳と利益を徹底的に擁護し、人民に忠実に奉仕する朝鮮労働党の徹底した人民重視の見解と観点、愛民献身の立場が反映されている。

総書記は歴史的な著作「すべての人が英雄のように生き、たたかおう」において、偉大な党の指導の下に革命の年代記ごとに勝利と栄光のみを記してきた朝鮮人民を英雄的な人民とおし立てた。

敵対勢力の反共和国孤立圧殺策動が極みを増していたときにも試練と難関が重なるほど百倍、千倍に強くなるのがほかならぬ人民であるという絶対的な信頼を持って、朝鮮人民を自主的近衛兵としておし立てた。

人民の心からの話しを聞いては素朴で清らかな人民だと情を込めて言い、外国訪問の道でも祖国の人民を懐かしんでいた総書記であった。

この世で全知全能な存在は人民大衆であり、「偉大だ」という表現で言える人民がいるとすればそれはほかならぬ朝鮮人民であるという総書記の崇高な意図と意志によって、党も、国家も、人民に献身的に奉仕する母なる党、人民の戸主として強化、発展することができたのである。

金正恩総書記の音楽哲学

総書記の政治の根底には音楽と革命、音楽と政治の関係を科学的に深奥に解明した非凡な音楽哲学が置かれてある。

金正恩総書記の音楽哲学は一言で言って、音楽が革命の武器、政治の威力ある武器であり、歌声の高いところには革命の勝利があるという思想である。

いつか、人民軍指揮メンバーは、立派な腕前でピアノを弾きながら深い思いに沈んで歌を歌う総書記に接したことがあった。

歌い終わった総書記は驚嘆の目で仰ぐ彼らに、人民軍指揮官は情緒が豊かであってこそ、軍人たちとともに踊りも踊り、歌も歌いながら彼らの真心を知り、それに合わせて政治活動をおこなうことができる、私は時折、楽器をひきながら新たな戦法方案について考えるという意義深い助言をおこなった。

革命的な一篇の詩、一曲の歌は千万挺の銃剣に代わるものであるというのが金正恩総書記の確固たる主張であり、信条である。





今日の朝鮮

朝鮮労働党第８回大会で示された思想理論

総括期間の成果と根本要因

総括期間、朝鮮労働党は際会するすべての障害を大きな勝利に転じるための不屈の攻撃闘争を組織、展開し、この過程に新たな発展の時代、自存と繁栄の新時代であるわが国家第一主義時代を開いた。

朝鮮労働党は人民大衆第一主義政治を具現する過程に政治的・思想的力をかつてなく拡大、強化し、自らの力を増大させるための闘争過程に自力更生をチュチェ朝鮮の国風、朝鮮革命の唯一無二の闘争精神として一層強固にし、自力で経済発展を持続させていける大切な元手がもたらされ、建設事業を力強く推し進めて国の面貌を一新させた。

朝鮮労働党は自衛的国防力を強化するための闘争を力強くくり広げて国家核武力建設の大業を立派に実現し、新たな先端兵器システムを相次いで開発、完成するようにして、国家の軍事技術的強勢を不可逆的なものにし、戦争抑止力、戦争遂行能力を最高の境地に引き上げ、人民軍を最精鋭化、強兵化するための活動で大きな進展が遂げられた。

朝鮮労働党は積極的な対外活動を展開して長い歴史的根源を持つ朝中関係の新たなページを開き、伝統的な朝ロ関係を拡大、発展させうる礎石を築き、社会主義諸国との団結と連帯を一段と強化し、朝米間の力関係を劇的に変化させて、共和国の尊厳と地位をあまねく誇示した。

総括期間に収められたこのすべての成果は、朝鮮労働党の主体的な革命路線と賢明な指導がもたらした貴い結実であり、全人民が党の周りに固く団結した偉大な一心団結に源泉を置いている。

朝鮮労働党第８回大会の基本思想、基本精神

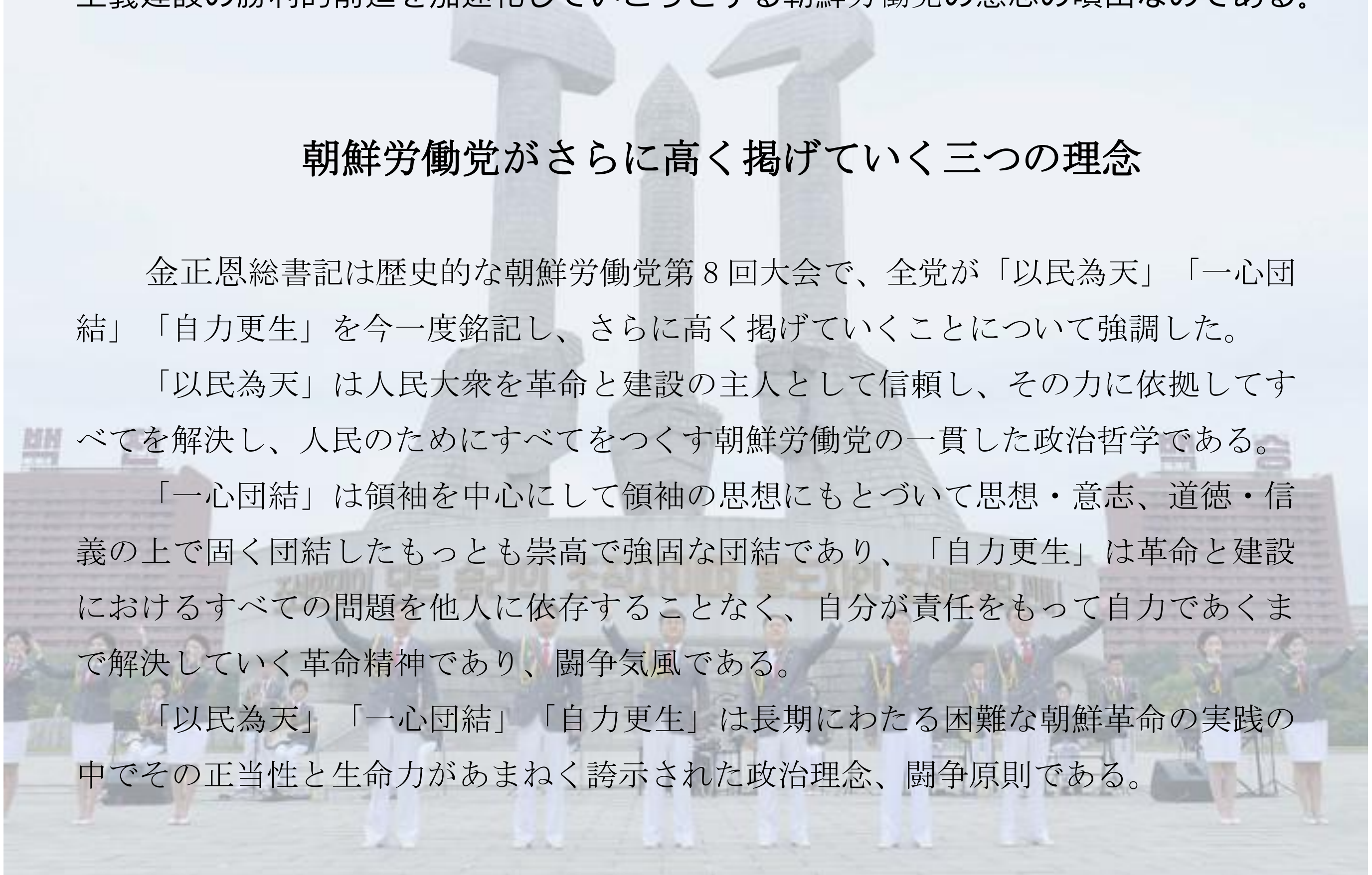
朝鮮労働党第８回大会の基本思想、基本精神は社会主義建設の主体的な力、内的原動力を一段と強化し、各分野において偉大な新たな勝利を達成しようということである。

言い換えれば、われわれの内部の力を全面的に整備し再編成し、それに基づいて全ての難関を正面突破し、新しい前進の道を切り開かなければならないということである。

朝鮮労働党第８回大会の基本思想、基本精神には現存する外部的な挑戦をもっとも確実に、もっとも早く撃破できる近道が示されている。

朝鮮労働党第８回大会の基本思想、基本精神にはこれとともに社会生活の各分野に内在している偏向や欠点を成功裏に克服し、絶え間なく新たな前進の道を開いていくための基本要求が反映されている。

朝鮮労働党は今回の大会で自己の活動を批判的な立場に立って冷静に分析、総括した。それは決して成果が小さいからではなく、新しい革新、大胆な創造、絶え間ない前進を志向し、奨励して主体的な力、内的原動力を一段と強化することにより、社会主義建設の勝利的前進を加速化していこうとする朝鮮労働党の意志の噴出なのである。



朝鮮労働党がさらに高く掲げていく三つの理念

金正恩総書記は歴史的な朝鮮労働党第８回大会で、全党が「以民為天」「一心団結」「自力更生」を今一度銘記し、さらに高く掲げていくことについて強調した。

「以民為天」は人民大衆を革命と建設の主人として信頼し、その力に依拠してすべてを解決し、人民のためにすべてをつくす朝鮮労働党の一貫した政治哲学である。

「一心団結」は領袖を中心にして領袖の思想にもとづいて思想・意志、道徳・信義の上で固く団結したもっとも崇高で強固な団結であり、「自力更生」は革命と建設におけるすべての問題を他人に依存することなく、自分が責任をもって自力であくまで解決していく革命精神であり、闘争気風である。

「以民為天」「一心団結」「自力更生」は長期にわたる困難な朝鮮革命の実践の中でその正当性と生命力があまねく誇示された政治理念、闘争原則である。

新たな国家経済発展５ヵ年計画の中心的課題

新たな国家経済発展５ヵ年計画の中心的課題はまず、金属工業と化学工業を経済発展のキーポイントとしてとらえ、基幹工業部門間の有機的連携を強めて実際の経済活性化を促すことである。

新たな国家経済発展５ヵ年計画の中心的課題はまた、農業部門の物質的・技術的土台を強固にし、軽工業部門に原料、資材を円滑に保障して一般消費財の生産を増やすことである。

北南関係と対外関係にたいする原則的立場

北南関係にたいする朝鮮労働党の原則的立場は、根本的な問題から解決しようとする立場と姿勢を持たなければならず、相手に対する敵対行為を一切中止し、北南宣言を慎重に受け止め、誠実に履行しなければならないということである。

対外関係を全面的に拡大発展させるために対外活動部門で堅持すべき原則的問題は、朝鮮労働党の尊厳の固守と国威の高揚、国益の守護を外交の第一の使命とし、対外活動で自主の原則を確固と堅持することであり、社会主義諸国との関係を一層拡大、発展させ、自主性を志向する革命的党や進歩的党との団結と協力を強化し、世界的範囲で反帝共同闘争を果敢に展開することである。

報告で朝鮮労働党は今後も強対強、善対善の原則に基づいてアメリカに対するであろうし、共和国は責任ある核保有国として、侵略的な敵対勢力がわれわれを狙って核を使おうとしない限り、核兵器を濫用しないであろうということを今一度確言することにより、朝鮮半島と世界の平和と安全を固守しようとする朝鮮労働党の確固たる意志を表明した。

朝鮮労働党第8回大会が盛大に開催される











敬愛する金正恩同志を朝鮮労働党総書記として高く推戴











朝鮮労働党第８回大会慶祝大公演
「党を歌う」が盛況裏に行われる















조선로동당
제8차대회

朝鮮労働党第8回大会記念
閲兵式が盛大に行われる










조선로동당
제8차대회

朝鮮労働党第8回大会記念
閲兵式が盛大に行われる










조선로동당
제8차대회

朝鮮労働党第8回大会記念
閲兵式が盛大に行われる



















조선로동당 제8차대회

朝鮮労働党第8回大会記念閲兵式が盛大に行われる











조선로동당
제8차대회

朝鮮労働党第８回大会を祝って祝砲を発射








조선로동당 제8차대회

朝鮮労働党第8回大会記念
写真および図書、美術品展示会















朝鮮労働党第８回大会の決定貫徹に奮い立った朝鮮人民

大高揚の進軍路に活力を吹き込む芸術家の生産鼓舞活動

朝鮮労働党第８回大会の決定貫徹へと大衆を呼び起こすための芸術家の生産鼓舞活動が各地で活発におこなわれている。

国立民族芸術団、国立サーカス団、ピバダ歌劇団、国立演劇団の俳優が平壌火力発電所、金鍾泰電気機関車連合企業所、黄海製鉄連合企業所、金正淑平壌製糸工場で力強い生産鼓舞活動をくり広げ、大衆を新たな革新創造へと大いに呼び起こした。

平安北道、咸鏡北道、咸鏡南道、黄海北道、黄海南道の各地方芸術団体も、工場と農場の現場に出向き、革新創造の熱風を燃え上がらせた。









進軍の第一歩を大きく踏み出した朝鮮人民

朝鮮労働党第８回大会で示された綱領的課題の貫徹に奮い立った朝鮮人民が年初から人民経済計画を繰り上げて完遂しながら、勢いよく前進している。

金策製鉄連合企業所と黄海製鉄連合企業所をはじめとした金属工業部門で増産突撃戦を力強くくり広げて１月 30 日現在、すべての指標にたいする生産計画を結束する成果を収めた。

興南肥料連合企業所、南興青年化学連合企業所をはじめとした化学工業部門と北倉火力発電連合企業所をはじめとした電力工業部門でも果敢な増産闘争をくり広げて１月の人民経済計画を立派に完遂した。

石炭工業、鉄道運輸、機械工業、採取工業、林業、建材工業、軽工業部門をはじめとした人民経済のすべての部門で生産正常化のための手配を綿密におこなって計画を遂行した。










기술혁명











党の構想を先頭に立って実現していく頼もしい青年たち

党の構想を体して新たな 5 ヵ年計画遂行のための初年の進軍に奮い立った朝鮮青年の力強い足音が響き渡っている。

新たな 5 ヵ年計画の初年の課題を遂行するための闘争で偉勲創造の火の手を上げている西部地区炭田の 20 の青年突撃隊がチュチェ 110（2021）年 1.4 半期の計画を繰り上げて完遂する成果を収めた。

青年たちが偉勲創造、肯定創造、文明創造の旗手、美徳と美風の先駆者になるという党の意を体し、南浦市の 140 余名の青年が市内の 20 余の農場に進出して党の農村建設構想を先頭に立って実現していくことを決議した。

困難で骨の折れる部門に進んで進出する青年たちの隊伍が引き続き増えている誇らしい現実は、朝鮮式社会主義の新しい勝利を目指す大高揚の戦闘場で青春の自叙伝を立派に書こうとする朝鮮青年の愛国の熱意を物語っている。





増えている模範技術革新単位

全国各地の多くの単位で朝鮮労働党第８回大会の決定に従って、模範技術革新単位称号獲得運動を行い、価値ある技術革新案を大いに創案、導入するための活動が力強く展開されている中、さる２月、チュチェ 110（2021）年に入って最初となる模範技術革新単位が輩出された。

朝鮮科学技術総連盟中央委員会の当該部署に総合された資料によると、今回に模範技術革新単位称号を獲得した単位は九つの３重模範技術革新単位と 34 の２重模範技術革新単位を含めて総じて 91 の単位だという。

３ 重、２ 重模範技術革新単位称号と模範技術革新単位称号を獲得した単位では党組織の指導の下に技術革新の目標から大胆に、現実に基づいてうち立て、幹部が先頭に立って科学技術を自己の単位の内的潜在力を強化し、単位発展の生命線としてとらえていくことにより、技術革新運動が大衆自身の運動として転換されるようにした。



考古学分野で収められた成果

安岳郡月池里で高句麗壁画古墳が新しく発掘

最近、社会科学院の考古学研究所では黄海南道安岳郡月池里で２基の高句麗壁画古墳を新しく発掘した。古墳では精密に加工された金製の耳飾りと花弁の文様の装飾品など、９点の金製の装飾品が出土された。

一番目の壁画古墳は玄室の天井が平行三角支え天井として、その形式が伝統的な高句麗時期のものである。四つの壁面と天井では四神図と蓮花の文様、雲の文様、蓮の花びら、アキグミ、亀甲の文様などとともにかつては見られなかった星絵も出土した。

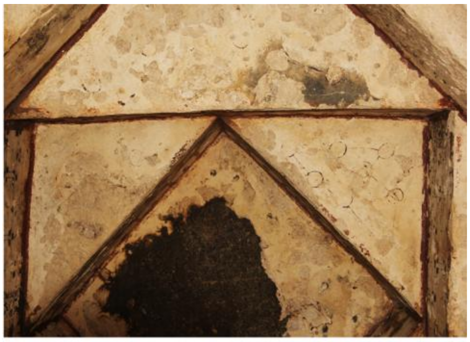
二番目の壁画古墳も石棺土墳として、太陽など、多くの壁画の切れ端が残っている。

古墳の壁画に反映された幻想的な絵画と金製の耳飾りをはじめとした金製の装飾品は当代の人々の天文学的知識の水準と信仰観念、発展した金属細工術をよく見せている。

今回に発掘された壁画古墳は６世紀の前半期に築造されたものとして、この地方が高句麗の重要な行政的中心地の一つであったことを新たに解明し、千年強国高句麗の歴史と文化についてより正しい理解を与え、朝鮮民族文化の単一性と共通性の明白な確証として価値ある資料となる。


현무


청룡


별자리


백호


주작


거북잔등무늬 2


련꽃우의 인물


무덤들에서 발굴된 금장식품들

平安南道粛川郡新豊里で旧石器時代の狩り立て場遺跡を新たに発掘

最近、社会科学院考古学研究所人類学研究室では平安南道粛川郡新豊里で旧石器時代の狩り立て場遺跡を新しく発掘した。

丘陵のような山地に囲まれた田畑に位置している遺跡は狩り立て場である一号地点と石器製作の場所である二号地点に分かれるが、二つの地点は約８０m離れている。

遺跡の一号地点では打製の石斧、ふくしをはじめとした３点の石器と骨錐をはじめとした 10 余点の骨器、そして人工的な打撃によって生じた痕跡のある獣の骨の化石をはじめとした 1380 余点の化石が出土し、二号地点では 21 余の石器と千数百点の石器半製品及び石の欠片が発掘された。

研究集団は数回にわたって遺物にたいする鑑定と分析、電子常磁性共鳴法による年代測定をした上で、この遺跡がわが国の平野地帯で初めて発見された、約 15700 年前に相当する旧石器時代後期の狩り立て場の遺跡であることが解明された。

新豊里遺跡が発掘されたことにより、平野地帯で生活した旧石器時代の人たちの生産活動過程を究明しうる豊富な資料が得られ、朝鮮の新石器時代の文化が北方の他の地域から流入したと主張する歴史歪曲行為の不当さを明らかにし、朝鮮の新石器時代の文化はほかならぬ朝鮮の旧石器時代の後期文化に淵源を置き、独自に発生したということを明白に論証できるようになった。





卓越した思想、非凡な英知に魅了されて

高級な石材が平壌に運ばれた話

「この石材はチュチェの朝鮮、金日成主席がおられる平壌に送るものだ。少しでも石にひびが入るなら、それはわれわれの心にひびが入っているも同然である」

ペルー金日成同志著作研究センター委員長の真心のこもったこの言葉は、進歩的人民の心と至誠がどんなに熱くて強烈なものであったかを物語っている。

平壌にチュチェ思想塔が建立されるという消息を聞いたペルーのチュチェ思想研究者は討論を重ねた末に、数世紀前、自己の地域の原住民が建物や記念品を装飾するときに使ったというペルーにしかない独特な文様の珍奇な大理石を探し求めてチュチェ思想塔の建立に寄贈することにした。

彼らは大理石の産地を探すために研究機関の歴史資料を一つ一つ調べる過程に、ある歴史記録でその大理石がアンデス山脈にあることを知るようになった。

しかし、喜びは瞬間であった。首都リマから遠く離れたアンデス山脈のある地点にあった大理石の産地が、一草一木もない海抜 4000－5000m もなる、危険な急傾斜の所であったからである。

しかし、チュチェ思想研究者らはためらうことなくその道に乗り出し、艱難辛苦の末に目的地に着いた。

より難事は、数百kgもある石材を道路まで運ぶことであった。

ややもすれば、深い渓谷に石材を落として失う恐れもあり、人々の生命を侵す恐れもあった。

しかし、いかなる隘路と難関も彼らの前進を防ぐことはできなかった。石材の運搬途中にバランスが崩されたとき、生命の危険も関わりなく一身を石材の下に投げ打つチュチェ思想研究者もいた。

チュチェ思想研究者の固い信念と意志、高潔な思想感情がこうした犠牲精神を生ん

だのである。彼は腕と肩に負傷したにもかかわらず力いっぱい石材を支えながら同僚たちと最後まで危険地帯を克服した。

自主時代を代表する不滅のチュチェ思想を人類に与えた金日成主席にたいする熱烈な敬慕の念とチュチェ思想を永遠に信奉しようとする彼らの覚悟と意志はこのように熱烈で真実であった。この熱い心に支えられて高級石材は平壌に運ばれたのである。



「太陽は東から昇る！」

1980 年代の中葉、朝鮮の代表団がブルキナファソを訪問したときのことである。

朝鮮の代表団と談話する席でブルキナファソの著名な文人であり、社会活動家であったタル・セクは、自分はチュチェ思想に共感し、その創始者に魅了され、また、創始者の偉業を継承する偉人を尊敬するようになった、「太陽は東から昇る！」、これは私が人生の体験を通じて得た結論であるといった。

チュチェ思想の真理性と偉大な生命力に魅了された彼は、一生の総括作といえる図書「朝鮮、領袖とその偉業の継承」を立派に完成して発行した。

彼がこの図書を出版するまでは 10 余年という歳月が流れた。

タル・セクが長い間、図書を執筆したことには理由があった。

彼が２歳の時、父は「一日を生きても張り合いのある人生を生きろ」という遺言を残して世を去ったという。１０歳のとき、母から父の遺志を伝言された彼はその後、文壇に足を踏み入れ、文筆活動をおこなった。しかし、彼の心の中はいつも虚しさでいっぱいであり、日が経つに連れて、果たして自分のやることが張り合いのある事なのかという疑問だけが大きくなった。

そのセクが人生転換の新しい出発をしたのはチュチェ思想に接した時からであった。

彼が最初チュチェ思想について知るようになったのはナイジェリアでであった。

彼は逗留期日まで延期しながら夜を明かしてチュチェ思想に関する多くの本を耽読した。時代の前途を明示する人間中心の思想に接した彼の喜びは大きかった。

やがて彼は父の遺言に従う道はまさに自主の旗を高く掲げていく不世出の偉人の業績と指導、高邁な徳性を世界に伝えることであると確信するようになり、10 余年を「朝鮮、領袖とその偉業の継承」という図書の執筆に捧げるようになったのである。

心の支柱

ユン・ソン

チュチェ思想研究者の中にはタンザニアの普通の素朴な女性であるマガレットもいた。彼女は有名な学者でも、社会の有名人でもなかった。

一時、彼女は、自分の不幸を数奇な運命のせいだと思っていた。人間が生きていくには「神さま」に依拠しなければならないというのが彼女の人生観であった。

そうであった彼女がどのようになってチュチェ思想の熱烈な研究者になり、偉大な人間学説を普及する道を選ぶようになったのか。

1983 年の夏のある日、マガレットの家庭には思いも寄らなかった不幸が襲ってきた。夫が急病にかかって体を動かせなくなったのである。マガレットが毎日、夫を助けてくださいと「神さま」に祈ったものの、夫はとうとう息を引き取ってしまった。彼女は精神的煩悶の中にさまよった。

その後、彼女は金正日総書記の不朽の古典的著作「チュチェ思想について」を接するようになった。著作を耽読すればするほど、彼女は落ち着くことができなかった。著作には、自己の運命の主人は自分自身であり、自己の運命を切り開く力も自分自身にあるという思想が込められていた。これは、自分の不幸を数奇な運命のせいだとのみ思っていた以前の生活観を完全に覆す、まったく新しいものであった。

著作に込められた真理は長い期間、虚しい精神的支柱に頼って生きてきたマガレットに闘争と生の意欲をかき立てた。

「チュチェ思想こそは、わたしが信頼しうる心の支柱である。ありもしない神さまを信じるのではなく、チュチェ思想が教える通りに自分の力で生活を開拓していこう」

チュチェ思想に真の人生の進路を求めたマガレットは、その後から自分がまずチュチェ思想について幅広くて深く把握する一方、人々の間にチュチェの真理を普及するために活躍するようになった。

懇　談

数十日間に極から極へ

台風と暴雨によって数万の罹災した人々、もっとも不幸であった人たちがわずか数十日の間にもっとも幸福な人たち､多くの人が羨む対象になった話が昨年チュチェ 109（2020）年に朝鮮で生まれた。われわれは災難にあった人たちがわずか数十日の間に万福の主人公になった話を伝えたくて朝鮮社会科学者協会の研究士たちと席をともにした。



司会者: チュチェ 109（2020）年朝鮮では例年になく 3 回の台風と水害を蒙って、数千世帯の住宅が破壊され、多くの人々が災難を蒙ることがあったんですね。

キム・ソングック: 人民が自然災害によって一瞬なりとも落胆し、生活上の不便を感じてはいけないといって、党が早急に措置を取ったため、被害地域の人民は、すぐ安定した生活をするようになりました。銀波郡大青里の被害者は党と政権機関の庁舎で生活上の便宜を保障されながら生活するようになりました。



シン・ヘギョン: 被害地域の人民に食糧と生活必需品が、児童や生徒には新しい文房具が、老人には強壮剤が保障され、さらには被害復旧に動員された人民軍部隊の軍医たちが住民の治療を受け持って行い、入れ歯もしてくれる人民愛の美談が生まれるようになりました。



朝鮮労働党の金正恩総書記は被害地域の人民を安定させるための暖かい措置を相次いで講じました。総書記は党中央委員会の各部署と本部の家族世帯が奮い立って被害地域の人民に必要な家財道具を支援し、党中央委員会の幹部たちが農場を労力的に、物質的に支援して協同農場の農民たちに信念と勇気を与えるようにしました。

司会者: 国の貴重な財宝を動員して被害地域の人民の生活上の便宜を保障するとともに、すぐ自然災害の復旧活動がおこなわれたのではありませんか？

リ・クムヒ: 世界の多くの国が台風と暴雨による被害を被った後､そのひずみをいやす復旧活動をおこなうことは普通のこととなっています。



金正恩総書記は最近、突発した甚だしい雨季の暴雨と台風被害による心配と苦衷が実に大きかったが､偉大な人民のために苦悩することはこの上ない栄光と見なすと話しました。

総書記は、朝鮮労働党は人民のために必要なすべての措置を講じるだろう､天のような人民の信頼に報いるだろうとして復旧戦闘を陣頭に立って指揮しました。

ヒョン・ウンオク: 人民のためを思う総書記の人民愛の高さ、理想の高さは農村住宅の設計と施工、完工を見てもよく分かります。総書記は災害地域に赴き、建設物資の所要量、物資節約の側面にこだわらずに、農村住宅を農場員の意見通りに１棟１世帯に設計して立派に建設するように指導しました。また、他の自然災害の復旧現場を訪れた総書記は新たに建設された住宅の設計が多様でないことを残念がり、他の地域に建設される住宅の設計はより便利に、多様にするよう強調しました。そして建設された新しい住宅にたいする評価も人民から受けなければならないとし、建設者が人民の要求を重視し、彼らの便宜に合わせて、遜色なく建設するようにしました。

キム・ソングック: 金正恩総書記の人民愛の意志を体し、人民軍隊が被害地域に派遣されて昼夜を分かたぬ建設戦闘をくり広げましたが、金化郡の人民は住宅の建設がご飯を炊く速度よりもっと速いと賛嘆の声を惜しみませんでした。



リ・チョルボン: 金正恩総書記は被害復旧活動が自然災害を振り払うための単なる経済実務的な復旧建設過程ではなく重要な政治活動の過程に、一心団結を強化する契機にする、卓越した指導実力を発揮しました。

司会者: ええ、それについても具体的に話していただければありがたいのです。

キム・ソングック: 金正恩総書記は被害地域の人民に一日も早く新しい家をつくってあげようと、人民軍隊を被害復旧の戦場に主力として派遣し、奇跡を創造するように指導しました。そして人民軍軍人が党の期待と人民の信頼に応えた時には朝鮮労働党の宿願をもう一つ実現したと人民軍軍人たちに感謝の挨拶を送りました。

イン・フン: 総書記は人民軍を人民の幸福の創造者として先頭に立たせただけでなく、直接首都の党員に公開書簡を送って彼らを災害復旧現場に進出させました。総書記は被害現場で直接書いた書簡の中で首都の党員が党の気づかいと配慮をもって、首都平壌の温かい情をもって、被害地域の人民をやさしく慰め、一日も早く災害を払拭するように真心を尽くして支援し、奮闘することを呼びかけました。

全国の人民を懐に抱いて見守る総書記の熱い熱と情を体して、首都の中核党員で組織された二つの首都党員師団が被害地域に派遣されて闘争と革新で日々を彩りました。

シン・ヘギョン: その日々はそのまま全社会的に困難な人々を先に考え､彼らと常に苦楽をともにする社会主義的国風が高く発揮される過程であり､社会の一心団結が一層強化された日々でした。





今回、災害地域の人民は母なる党が自分らの生活上の便宜を図るために施す深い愛情、自分たちのための金正恩総書記の労苦と心血に胸を打たれて涙をしました。彼らは祖国と人民のために大きく寄与したこともなしに、家で扶養を受けていた自分らに無料で、何の労力をかけずに、十余日あるいは数十日の間に家具や調度品、一般消費財を揃えた住宅を配慮してくれた金正恩総書記の暖かい恩恵に感謝の涙を流しました。

リ・チョルボン: 涙を流したのは彼らだけではありません。全国の人民がともに喜び、感謝の涙、感激の涙を流しました。昨年は苦難と試練も多い年でありましたが、われわれが抱かれている党の懐、祖国の懐がどんなにありがたいものであるかを切に感じた年でありました。

リ・クムヒ: 国の東南部から北部に至るまで金正恩総書記は被害地域を全部回りました。乗用車が滑るぬかるみの道も先に踏み、危険極まりない仮設の峡谷鉄道も通りながら現地を訪ねた総書記の為民献身があって、多くの被害地域に短期間で社会主義の理想郷が生まれ、人民が災難から幸福へと極転換する驚異的な現実がもたらされるようになりました。

司会者: みなさんの話を通じて金正恩総書記の偉人像についてさらに深く感じるようになりました。

実に、金正恩総書記は人民の生の恩人であり、運命の太陽です。










은파군위원회











생활용품




実話

橋脚を注視する若者

イン・フン

朝鮮民主主義人民共和国創建 70 周年慶祝行事に参加するために平壌を訪問したブラジル先軍政治研究センター代表団を乗せた車は毎日、参観の日程にしたがって市内の各地を走り回った。

それらの参観地に行く途中車は時々、必ず橋を渡るようになる。平壌の風致を引き立てながら都市の中心部を悠々と流れる大同江に掛け渡された大きな橋だけでなく、都市をめぐって流れる普通江にかけてある大小の橋も多い。

車がある橋を通過して曲がり角を回る瞬間、窓の外に頭をぬっと出す若者がいた。

橋脚が見える。

その橋脚に人々の住むバラックやビニールハウスがあるかも知らない。ブラジルで見ていたそんな家が平壌にもあるという話を聞いていたため、目を凝らして見つめた。

彼は橋を渡るたびに瞬間的に車窓外に首を出して橋脚を注視した。

「なぜだろう？」

彼の怪しい行動は自然に代表団一行についている通訳の疑問を呼び起こした。

若者は代表団の一員であるブラジルのリオデジャネイロ連邦総合大学言語学部の学生ルカス・ルビオ・メスキタ・ダ・シルバであった。彼は初めての訪朝である。

訪問の日程を成功裏に終えて帰国する前の夜、彼は率直な気持ちを吐露した。

「わたしは平壌の橋脚の周りにホームレスが暮らしているという話を聞いてどのように住んでいるのか、好奇心をもって車が橋の上を通るとき、毎度見下ろしました。ところがホームレスはまったく見えなかったのです。橋脚の周囲に住んでいる人々がいませんでした。

わがブラジルではホームレスが橋の下のよい場所を占めるために互いに喧嘩まですることもあります。わたしは朝鮮も同じだと思って見張ったのですが、いくら探しても見えなかったのです」

通訳の娘は彼が未来科学者通りの住宅を参観しながら非常に羨んでいたことが思

い出された。

「あなたたちは自分の制度のありがたさを全部知らないようです。借家の月賦払いのため、しょっちゅうそのことを考えながら生きるのがどんなに苦しいストレスであるか、知らないはずでしょう。

一生稼ぎながら働いても自分の家をもてずに住む人々が世のなかにどんなに多いか知りますか？自分の家を持って住むということは、実に大きな幸福です。国民の裕福さを誇るアメリカにさえ、家賃を払えなくて追い出された人々が町でテントを張って暮らしているのを、わたしは実際に見ました。」

ある観光客の感嘆

リョム・ジョンシル

大マスゲーム・芸術公演「アリラン」を観覧するためにメーデー・スタジアムに行くバスの中で香港娯楽参観団の団員ジョン・ボクサンは何気なく自慢話をした。

「わたしは 1996 年アメリカのアトランタでおこなわれたオリンピックの開幕式に参加してマスゲームを見ました。とても素晴らしかった」

ガイドの娘は笑いながら言った。

「今回の大マスゲーム・芸術公演『アリラン』を見た外国の多くの人がわたしに立派な公演を見せてくれて感謝すると何回も挨拶していました。先生も多分、そうするでしょう…」

「ガイドさんはほんとうにそう思いますか？」

「はい、わたしは必ずジョン先生からそう言われるだろうと思います」

「ははは…」

車内の人たちは二人の対話を聞いて今に見ようと言いながら笑った。

果たして世界に知られたマスゲームの水準はどのぐらいだろう。

メーデー・スタジアムに到着すると、駐車場とその周辺は公演を見るために集まった人々で一杯だった。

国内の人ももちろん多かったが、自分たちのような国外からの観光客がバスから降りる姿もあちこち見えてきた。

参観団のメンバーはいままで自分たちが見てきた大公演を思い描きながら決められた入り口で入って指定席に座った。

「やあ！」

突然、歓声が沸きあがった。

いよいよ、大マスゲーム・芸術公演「アリラン」が始まったのか。

あれっ！

ジョン・ボクサンは目をこすりながら再びバックスタンドを見上げた。まだ始まっていない。観覧客が入って席に座る間、公演の前のバックスタンドの練習が始まったのである。

あまりにも素晴らしくて公演が始まったのだと勘違いした。

「やあ！」

隣に座った人たちが歓声を上げた。公演が始まる前から歓声を上げるなんて？！

コンピューターで操るように、あまりにも精巧なバックスタンドの一致した動きが人々を感動させていた。

ジョン・ボクサンは公演の全期間、何も言わなかった。客席全体がやあっ、やあっとざわめく時も彼は黙っていた。

ただ望遠鏡で各場面が変わる時の出演者の一糸乱れずの動きに見入ったり、バックスタンドの画幅がもしかしてコンピューターの合成ではないかと目を凝らしたりした。

そのなかでいつ公演が終わったかも意識しなかった。彼は沈黙した。うんともすんとも言わなかった。

観光客はざわめいている。

「素晴らしい、これは飛行機に乗ってきた甲斐があるぞ」

祝砲が上がる平壌の夜空は実に美しかった。

大勢の観客が観覧席の出入り口から水のように流れ出てはバスに乗る。

白昼のように明るい駐車場で夜景の美しさをバックに記念写真を撮る人々の姿も異彩であった。

ジョン・ボクサンがバスに乗らずに歩みを止めた。

みんな彼を見た。果たして彼が何を言うだろう。

全世界を一周したと自慢する彼の評価を聞きたがっていた。

「実に、想像を絶する。世界的な傑作である。わたしは 1996 年アメリカのアトランタでおこなわれたオリンピック開幕式に参加してマスゲームを見たが、『アリラン』はそれをはるかにしのぐ世界最高の大傑作である。10 万名が数ヶ月の間、準備したというが、こういう公演はひとえに社会主義朝鮮でのみ可能である。

世界的なマスゲーム選手権大会が開かれるならば、『アリラン』は優勝をして 10 万の金メダルを授与されるだろう。一言で言って、最高である」

彼はガイド娘の手を握り、「ガイドさん、今日、完璧な公演を見せていただき、ありがとうございます」

バスに乗るために集まっていた参観団のメンバーは拍手を打った。その拍手はジョン・ボクサンへの拍手なのか、それとも「アリラン」への拍手の連続なのか…


자주 평화 친선

